



話し合いを再開します。



今年に入ってから社会情勢の変化の中で、松之山の暮らしの魅力や底力を改めて感じた方も少なくないかもしれません。魅力ある里山暮らしを、未来に繋いでいけたらいいですね。

住民アンケート結果、やってみる会議、班ごとのおかあさんたちとの話し合いからは、「安心安全な地域づくり」の課題がたくさん見えてきました。

一方で、少なくなったとはいえ、地域には様々な意見があり、「誰が」「どのように取り組むのか」などの意見の集約はなかなか難しいこともあります。

そんないろいろを含めて集落役員さんと地域支援員とで話し合いを重ねた結果、まずは「防災」を重点的に取り組むことになりました。

班ごとに「防災マップ」をつくります☆

話し合いからは、「防災」と一言に言っても様々な課題があることが見えてきました。

そこで、まずは、暮らしの一番身近な集団である“班”ごとの「防災マップ」を作ってみることになりました。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

＜被災時は、住民同士の繋がりや備えが助けになります＞

災害発生時等は行政により指定避難所の開設などが行われますが、災害時の初期対応、避難所生活などにおいては、行政のマンパワーだけでは対応しきれないことが少なくありません。

小さな地域の小さな集落だからこそ「対応できること」「対応しにくいこと」などについて、ふだんから情報を整理したり共有したりすることが、大切な備えになるようです。



【防災マップづくりの流れ】

①班ごとにお話を聞かせてください。

- ・班長さんを通して日程調整させていただきます。
- ・班によっては、班ごとの避難場所を決めた際の話し合いの内容を参考に、作成させていただきます。

②班ごとの防災マップ案を地域支援員が作成します。

- ・その班に必要な情報だけを記載する予定です。

③班ごとに内容確認をお願いします。

④一家に一枚ずつ配布します。

- ・目につく場所に、大切に保管してください。



【話し合いから見えてきた「防災」の課題】

これまでの話し合いから見えてきた課題を一部ご紹介します。
班ごとの「防災マップ」づくりの際に、参考にしてください。

<おかあさんたちとの班ごとの話し合いから見えてきた課題>

- ・食料や日用品の備えはある。
- ・日中は年寄りばかりでいざというときどう避難するのか不安。
- ・被災時の避難場所がどこなのかよく分からない。
- ・地震の時に自宅に帰るのが不安で集会所で過ごしていたが、いつまでいていいのかわからず不安だった



<集落役員さんとの話し合いから見えてきた課題>

- ・被災時には集落役員さんの負担が大きい。
- ・天水越は11班もあり、班ごとに被災時対応が異なる。
- ・班ごとの連絡員が機能する仕組みはできているのか。
- ・避難所開設や運営について、自主防災組織は認識共有できているのか。
- ・災害の種類、日中か夜間か、季節や天気、班ごと、などによって状況判断が異なる。

1. 「避難所」について。 ※ 防災マップ作りと並行して、防災情報をお届けします。

昨年から、指定避難場所と指定避難所が変わりました。

※被災時等に自宅にいるのが不安な場合、まずは班で決めた避難場所に行きましょう。

① 天水越集落の緊急避難場所：天水越集会所周辺、旧松里小グラウンド

- ・自主防災組織（集落）が指定した避難場所。「指定緊急避難場所」に向かう前の“一時立ち寄り所”というイメージ。

② 天水越集落の避難所：天水越集会所、旧松里小体育館

- ・自主防災組織（集落）が指定した避難所。「指定緊急避難場所」に向かう前の“一時立ち寄り所”というイメージ。自主防災組織が開設する。



③ 十日町市の指定避難所・・・松之山体育館

- ・市が指定した避難所。災害から避難した住民等が、災害の危険がなくなるまで必要期間滞在したり、災害によって自宅に戻れなくなった住民等が一時的に滞在する施設。市の職員が開設する。

④ 十日町市の指定緊急避難場所・・・松之山グラウンド

- ・市が指定した避難場所。災害から身を守るために避難する場所。

地域支援員の取組みは、ポータルサイト松之山ドットコムでもご紹介しています。
住民アンケート結果も公表しています(2019年4月5日のポータルサイト記事に掲載)。ぜひご覧ください☆

お問い合わせ

十日町市役所松之山支所 地域支援員 本山・佐藤
☎ 596-3131 / FAX 596-3515